

人々の生活が多様化するとともに、支え合う社会の構築が求められている今日、その人固有の「語り」や人生の「物語」に耳を傾けることの重要性が注目されています。地域やケアをする人々のあいだで広がってきた語り手の話を言葉のまま記録する「聞き書き」には、人が生きてきた足跡を辿るだけでなく、他者とのコミュニケーションの架け橋になり、活動そのものが喜びに結びつくなど、さまざまな魅力があります。

本企画では、参加者の皆様と「聞き書き」がもつ可能性、取り組みの方法などについて考えます。

多くの皆様のお申し込みをお待ちしております。

2022年
11月12日
(土)
14:00
~16:00

生活・人生の「語り」を紡ぐ —「聞き書き」のもつ可能性を探る—

登壇者

オンライン
開催
※Zoom
ウェビナー

プログラム

- 14:00-14:10 開催挨拶・趣旨説明(玉木千賀子)
- 14:10-14:40 「お年寄りが一人亡くなると、図書館がひとつ消える—『聞き書き』のすすめ」(小田豊二)
- 14:40-14:55 「ともに物語を紡ぐ喜び」(酒井成美)
- 14:55-15:10 「他者の語り」に耳を傾けることのもつ意味—学生による聞き書き本制作の取り組みから」(玉木千賀子)
- 15:10-15:20 休憩
- 15:20-15:55 フロア討論
- 15:55-16:00 閉会挨拶(玉木千賀子)



小田 豊二 (聞き書き作家)

出版社・デザイン事務所を経て、作家故井上ひさし率いる劇団こまつ座創立に参加。機関誌「the座」元編集長。日常の編集生活業務の傍ら、30年前より「聞き書き」の活動をはじめ。現在、日本聞き書き学校の講師として、全国で講義を行っている。著書『のり平のパーツといきましょう』(小学館)など多数。

酒井 成美 (ひまわり医療生協ひまわり聞き書き隊)

兵庫県尼崎市の診療所勤務。聞き書きを小田豊二先生に師事。診療所の患者・家族などの聞き書きを続けながら、阪神間での聞き書き仲間づくりに励む。2021年より沖縄の人々の語りを残したいと沖縄に足を運び、活動のネットワークづくりに取り組んでいる。



玉木 千賀子 (沖縄大学人文学部福祉文化学科 教授)

専門はソーシャルワーク。生育的・生活的な背景に起因し、自らの生活のしづさを表明することが困難なヴァルネラビリティを有する人の支援、ソーシャルワーク実践スキルの研究・教育に取り組んでいる。東北福祉大学大学院総合福祉学研究科修了。博士(社会福祉学)。



★視聴無料(11/10(木)16時までに要事前申込)★ ※講座終了後、簡単なアンケートにご協力ください。



申込先【Googleフォーム QRコード】

●氏名・連絡先・所属等を入力の上送信してください。
Wi-Fi等ネット接続ができる環境で、PC・スマホ・タブレット等から視聴できます。お申し込みされた方には、講座開始前日までに、接続先の情報(ログインURL)をメールでご案内します。前日17時までに案内メールが届かない場合は下記までお問い合わせください。



今後の講座案内をご希望の方は、地域研究所LINE友達申請をお願いします。

問い合わせ先: 沖縄大学地域研究所(沖縄県那覇市国場405)

窓口: 平日8:30~17:15(12:00~13:00閉室)

Tel: 098-832-5599 Mail: chicken-staff@okinawa-u.ac.jp